明治四十二年五月十五日發行（毎月一回十五日發行）
明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

明治の女子

第六巻
第五號

日本基督教女子青年會

123

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治の女子 第六巻 第五號

目次

論説

靈性の危機
聖書の研究
ミルトンの貞操觀　小松武治
努力と信仰　久連松弘

聖書の研究

ビリビ書解釋　柏井園

講壇

柔弱の結果　ジョウエット

訪問

女子の寄宿舍に就て　本多てい子

史傳

賢母モニカ（下）

もしほ草

丸薬を嚙むな○口を廣く開けよ○信仰の修養○夜も晝も之を思ふべし○祈りて倦まざるべし○禮拜と祈り會と讀書○自己を省みよ

會報

○第四回女子青年會夏期學校○日本女子青年會委員春期總會○東京第一寄宿舍開始○大阪ウヰルミナ女學校青年會

外報

○アフリカ女子青年の爲に必要なる事業○英國女子青年の爲すべき事業○印度女子青年會新會館○萬國學生青年大會と三谷たみ孃

明治の女子定價

部數	定價（郵稅共）	海外
一部	金五錢	金九錢
十二部	金五十錢	金壹圓

明治四十二年五月十四日印刷
明治四十二年五月十五日發行

東京市麹町區土手三番町十五番地
發行兼編輯人　エー、シー、マクドナルド

東京市神田區美土代町二丁目一番地
印刷人　島連太郎

東京市神田區美土代町二丁目一番地
印刷所　三秀舍

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

靈性の危機

今日は如何なる時代であるか。深き注意を拂はないものでも、日々に見聞きすることにより、實に心に恐れを懷き、肌に粟を生ずるを覺へざるを得ないであろふ。紙上に傳ふる處に依れば外より見れば平和氣樂に滿つると思ふ家庭にも汚れ、爭ひ悲みを以て襲はれ清き美はしき胸には世の忌ましき風波立たずと信ずる淑女も何時しか魔風と蠻雨に浸む者も少くない。特に近頃は堂々たる代議士の罪惡の嫌疑を受くるもの頻々として顯はれ金錢の勢力はかくも甚しきかと恐れを懷かしめ、又結婚の神聖なる儀典も淺薄なる意味を以て解せられ、高等の教育を受けたる女性にして輕々しく離婚のことを敢てするものがある。其の外一般に奢りに長じて綺羅錦繍を纏ひ脂粉の芳香芬々たるものあり、田舍にこそ戊申の詔勅の功果顯はれ勤儉の美風大に現はるゝ如きも都會の氣風に立つては靡然として倍々奢侈の傾向盛んである。都下の基督教主義女學校の近隣に住ふ紳士の家に一老婦あり。嘆じて云ふ彼の女學校は此迄隨分質素の風あり女生徒の衣服も簡易のものなりしが近來は仲々華麗になりましたあれではとても貧乏人は登校が出來ないでしようと。

現今の日本の有様がかやうなるものとすれば、之れ我等に取つて實に大なる誘惑の時機なりと云はねばならぬ。特に若き經驗なき女性に取つてはそうである。女性は先づ感情に支配され易きものなれば兎角虛榮に流れ易きものである。故に此恐ろしき時代には餘程注意し、克己し、奮發し、決心せねば知らざる中に誘惑の渦中に卷込まれてアヽ危ぶないと思ふ時には已に奢侈、虛榮、浮華の風に泥み、更に進んでは罪惡の激流に漂よいつゝあるかも知れぬ。

然らば如何にすれば能く此の誘惑の時機に處して巍然として岩の如く堅固に立ち、此時流に反抗することが出來るか、否反抗し得るのみならず、能く心の衷に隱れたる美はしき、清き、氣高き德を養ひ修むることが出來るか、これは餘程大切なる問題である、若しも能く此問題に對して適切なる助言、例へ不充分なるものにせよ、之を、女性諸姉に提擧することが出來たならば此れは誠に大なる貢献を女性に又社會に爲すものである。而して我等は今玆に斯の如き貢献を爲し得べしと云はぬが、少くとも之を爲さんと試みる。若し我等の微衷にして幾分にても諸姉を助くることを得ば無上の幸福に感たるものである。

其の助言とは何であるかと云ふに、余は諸姉と共に福音書

を繙きイエスが傳道の初めに當り靈に導かれて荒野に至り、四十日四十夜斷食して後ち、大に飢へたる時に受けられたる誘惑に就て深き注意を拂ひ、祈りの心を以て學ぶことである。固よりイエスの心に經驗せられたる誘惑と我等の胸に受くる誘惑とは比較にはならないであろふ。罪を犯したることなく、罪を犯す傾向なきイエスと、罪の奴隷になつたる人間との間に天地の差あるが如く、其誘惑に於て非常なる別あるは明かなることである。故にイエスの經驗し給ひし誘惑を取つて直に自個の爲めに教訓を得んとするは其分を知らぬものである。然しながらイエスが荒野の經驗を弟子に告げ給ひしは之れに依つて大に弟子を奬勵せん爲めなりしを思ふ、時は我等も之れに依り多大なる教訓と奬勵とを受け得るは明かである、そうして現今の如く誘惑多く最も戒心警醒すべき時代にあつては尙更に深き教訓を受け得ると信ずる。

イエスの荒野の第一の誘惑は、イエスが神より受け得られし權力、智能等を神の聖意に依らず、只自らの必要を充たす爲めに用ひしめんとする誘惑である。イエスは長き時日の間の斷食に依り飢へられたれば神の子たる權能に依り石を變じてパンとなすことは當然であり又實に易きことである。けれども其の當然であり、易きことをすることを以て誘惑とせられたるは如何なる意味であるか。之れは實に深き教訓を我等に與へる點である、而して其の意味はイエスの誘惑に對し答へられし言葉に依つて明かである、「人はパンのみにて生るものにあらず、唯神の口より出づる凡の言に因ると録されたり」

二

と、肉體の必要を充すことは當然である。此の當然の事も神の言即ち神命を俟たずして之をなすは神を蔑視にする罪である、否通常の見地よりすれば何んでもなかけれども高き淸き立場よりする時は之れ實に大なる誘惑である、罪の根底は神を無視して氣儘を行ふことである。而してイエスは明かに之を見て「人はパンのみにて生るものに非らず只神の口より出たる言に依る」と答へ此の危き巧みなる誘惑を打破し給ふたるのである、我等はイエスの此の時の健げにして麗かなる御心を察する時は實に畏敬の情に堪へざるものである。而して我等の學ぶべき處も其點である。富める者が自個の金を以て其の欲する所を行ふ、何の咎めらるゝ事がある乎、父母の許しを得て綺羅を飾る、何の不都合があらう。自ら食ひたきものを取つて食ひ、自ら行きたき所に行く、之れ當然のことのみ、とは、常人の考へである、而して我等神を主とし基督の婢僕なるものに取ては之れ實に大なる誘惑である。夫れ我等の富、知彗、時、否生命も之れ實に神のものにして我等は只忠實なる管理者として最も能く其の所有者の意志に協ふべく活用するに在るのみ、富者の驕奢、學者の高慢、我等の氣儘、之れ皆我等が管理者の地位よりして所有者の地位に立つ事で、之れ實に神に對して不敬である、萬の罪は此の不敬罪の根本より來る者である。

今や滔々たる衆人が相率ひて誘惑に陷りつゝ、尙恬として自ら如何なる深き淵に落下しつゝあるやを知らざるは最も悲しむべく　又恐るべきことにして而して我等の責任は斯の如き

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

場合に立つて神を畏れ其の聖意をなすを以て一生の大事と思ひ、人々が當然と思ひ何の不都合なしと信ずる場合に當つても、先つ神の聖意を考へ只其の聖意と信ずることのみ、聖意と信ずる時のみ。進退去就すべきことにして、此一事、只此一事能く我等をして總ての誘惑に打勝ちて神を信じ之を愛するの志深くなり、品性いよ／＼高上して實に隱れたる人即ち壞るよなき柔和恬靜なる靈を以て裝飾とすることか出來る。此靈の裝飾は神の前にて價貴きものである、古往今來神に忠順なりし聖き女は皆此の如くにして己れを飾つた。

今日は之れ實に靈性上の危機である、之れに處する道は決して教場の教訓、形式の辭禮、聖賢の遺訓等のみて盡くし得らるゝものに非らず、實に／＼只衷心神を畏れ其の聖意を爲すことと力行することに依つて得らるゝにあるのみ。故に我等は此際先つ誘惑の勝利者たる荒野のイエスに就て深く學ばれんことを望むのてある。

聖書研究

クーパー氏、米國學生青年會を代表して印度支那を經て渡來し、關西地方を巡周して東都に來り、數回の講話ありしが、其の主旨とする所は小數者を會して一團となし、之れに一の指導者を撰びて司會せしめ、而して其組員各自をして先づ出來得べき丈けの研究をなして集合し、共勉共勵の實行をなさしむるに在り、之れ只一の講演者の下に注入的に學修するの弊を避けしむるに在り、且つ組員少數なれば隨て相互の親睦と協同の精神を惹起すに至る。之れ小數者の組の多數者の團體に勝る所以なり。而して若し斯の如き少數者に依つて組織されたる組の數加はることゝなれば實に測るべからざる好き結果を來たすものなるは見易きことなり、斯の如くにして聖書の研究は米國青年會內外に追々盛大になりつゝあるなり。

之れに加へて、米國青年會に於て十數年前より聖書研究の方法を新案して之れを出版す其中に或は基督の傳、或は基督の教訓、或は使徒の教訓其他、特に基督の教訓中より社會上の問題に關する研究あり、之れ誠に聖書の研究を發達せしむる上に大なる助力なり、我國に於ても此出版物は大なる必要あり、此種の書籍なくんば聖書研究上に大なる進步を見ること少からん。故に目下日本基督教青年會本部に於て編纂の企圖中なりと言ふ、實に欣ぶべきことゝ云ふべし、

倘都下の學校青年會を初めとして地方の青年會に於て小組を結ぶ適當なる司道者を得て聖書研究を盛にせんことを勉めつゝあり、我等は女子青年會に於ても適當なる方法を講じていよ／＼聖書の研究の趣味を發起し、研究の普及を計られんことを希望す。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

論説

ミルトンの貞操觀

小松武治

ミルトンの詩作と生涯

昨年十二月九日は丁度ミルトン誕生三百年であつた。私は元來此詩人に就きては敬慕して居たものであるから此紀念すべき時を機會として少しばかり其生涯や作物について調べて見た。

人の知る如くミルトンの作物は總て主觀的のものであつて、何れも自身と云ふものと區別して考ふる事が出來無い、此點は詩聖ダンテに類似し、セークスピアとは反對の點である。セークスピヤは客觀的詩人とても云ふべき人であつた。

私の知つて居る詩人の中で其詩作外其生涯の最も興味あり變化あり學ぶべき所の多いのはダンテとミルトンとである。勿論其他にも幾らも隨分複雜な閱歷、傳ふべき逸事を持つて居た人もあるだらう、併し我等の立場から見るときは此等二人の右に出づるものゝない事を思ふのである。

序であるが我等若しダンテとミルトンとを仔細に比較研究し、其傑作たる「神曲」と「失樂園」とを對照し、二人の世界觀、人生觀將た宗敎觀を窺ふに於ては非常なる獲物がある事であらうと思ふ、之れは前途長年月を要する問題であるからこゝには單に其端緖丈を云ふて置くのみである。

前述のやうに如何なる作物でも我詩人の生涯と離しては了解する事が出來ぬのであるが、長たらしく其六十六年間の一代記を語るの餘裕がないからホンの槪略丈かいつまんで云ふて見やう。

ミルトンの略傳

大體彼の生涯を二分して前半即ち三十二才迄を幸福の時代と云ふ事を得るとすれば三十二才より六十六才迄の後半生涯を悲慘時代と稱する事が適當であらう、前半の三十二年間には十分の敎育を受け、頗る勉强をして希臘、希伯來、拉典、以太利各國語の如きは既に十六才で學び了つたと云ふ有樣、二十二才で大學を卒業し、其後ホルトンの田舍生涯を送つて好める詩作に從事して幾多の作物を出した。

二十九才から三十二才迄以太利旅行を企てた。目的は藝術の研究、名士の訪問、以太利語の研究等で、純乎たる修業の爲めのものであつて贅澤三昧のものではなかつた。

三十二才より死に至る迄と云ふは實に悲風慘雨殆んど寧日なき有樣、第一結婚上の災厄に出て逢ひ三度迄結婚したが、終には死に別れ而も最初の妻の殘せる三人の娘は何れも意地惡く實際の父を虐對する事一方でなかつた、第二、賴みにしたる友デオダーチが死に多くの友達が離間する、第三、忌はしき不幸な失明、之れは幼時勉强過度の結果かくなつたと云

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ふ事だが敵は之をば天罰だと稱して詬り呪ふと云ふ狀態であるから、尋常一樣の事ではない。第四はかの怪傑クロムウエルの墓の發掘次いで絞頭臺上に載せられる、之れ彼と事を共にし志を一にし來つたミルトンの堪ゆる處ではない、最後に失火、惡疫の中心となつて間もなく死の神に囚はれたと云ふ大團圓、何と變化の多い生涯ではないか。

此間に於て彼より活ける手本として學ぶ事の出來るのは彼の奮闘的品性である、舊約書のサムソンは蓋し彼の私淑して居つた人であらう、飽く迄も男子らしく飽く迄も主義主張を枉げずに、所有迫害と困難とに打ち勝つた事の如きは幼少の時より首尾一貫である。

而して彼の長所中の長所と云ふべきものは實に純潔貞操の行爲と思想とであつた、先きにも云ふたやうに二十九と云ふ青春の血燃ゆる誘惑多き壯年時代に、南歐以太利に旅行を企てたのであつた、鄕に往つては鄕に從へと云ふ我國の諺があるやうに西洋では「羅馬に往つては羅馬に從へ」と云ふ諺がある、と云ふ意味は多くの文學者、美術家達が文藝の香を嗅ぎ品を見んとて南下して居る中、遂ひ誘惑に陷り、墮落を極め放逸の生活を送るに至るのであるが、彼れミルトンに至つては決して然らず、斷じて然らず。

滯留三年間愼獨の工夫を成就し、古典を學び作品を賞鑑し、多くの知己を求めて餘念なく、彌々深く趣味と見聞とを養つて歸つたのである。而して彼は三ケ年の經驗として「神知り給ふ、予は縱令人の目を忍ぶ事が出來ても神の目を逃るゝ事が出來ぬ、と云ふ考をいつも懷いて居つたが爲めに如何なる所に往いても曾て放蕩や奸惡に陷つた事がなかつた」と以太利紀行日記中に書いて居る、之れ取りも直さず彼が凱歌とでも云ふべきものではないか。

「コーマス」に於ける貞操

以上は彼の生涯の瞥見と品性の一斑である、私の最初の趣意は彼の貞操觀であつた、而して之を以太利紀行中に實際目擊する事が出來たのだが、私は更らに彼の書いた「コーマス」(Comus) 中より學ぶ事頗る大なるものがあると思ふ。

此詩は二十五歲の時ホルトン退隱中の作物で、云はゞ一種の歌劇とでも見るべき二千行計りのものである。

此詩の眼目は貞潔の德の力強き事、魔術も之に當る事の出來ぬ程の權威ある事を云はんとするものである、其結末の數行は遺憾なく作者の貞操觀を表はして居るものと云ふ事が出來やう。曰く

人々よ、我に從はんと思はゞ
淑德を愛せよ、これのみは自由のものにて、
此世のかなた、神の御座に昇るを敎ゆるものぞ、
此德よしや力弱くも、
天は自ら屈みて近づき來らん。

此結句よりして我等の淑德が自由絕對のもので神に到るの道である事と、淑德さへあれば天は近づいて之を助けるのであるから弱きが如くして實は强いと云ふ事を學ぶ事が出來

る。此實例は左に示す處の此詩の筋書によりて學ぶ事が出來る。

「コーマス」の筋書

純潔なる一少女二人の兄と共に山に入り、遂に行き暮れて路を失ひ、やがて兄二人は谷に下りて泉を汲まんとて妹一人を殘して往く、すると兄は歸路を失ひ如何にしても妹を見出す事能はず、すると幼な心の妹はあはれ暗と寂しさとに困うじ果てゝ居る、併し家庭の敎育の堅固なのと、品性の高潔なのとて、平素抱いて居る信仰、希望及貞操がある限りは神は必ず守護し給うて、生命と名譽とを安全ならしめ給ふ事と確信した。

兄二人は路に迷うて居る事よりも心に懸るは妹の事てある、兄が星明りもがなと云へば、弟は若し善からぬものゝ手にでも捕はれはせぬかと案ずる、併し兄は制止してこゝに望と恐と二つがある場合には寧ろ望の方を取るのが自分の慣習だと云ひ、隱れたる力を持てるものは神必ず之を助け給ふ、弟よ之れぞ即ち貞潔と云ふもの、これある女は鋼鐵造りの鎧着たるに同じく、山陰、洞穴、崭巖、猛獸、悪党も何のその、千の天使武裝して之れにかしづき……心の齊殿なる顔貌迄光を添へ自づと靈魂の粋に變りすべて不朽不死となると云ふた。弟は之を聞いて感嘆措く能はなかつたのである。

話變つて妹の身が案じられたも道理てあつた、こゝに魔術使ひのコーマスと云ふ悪者が現はれて妹に近づき極めて質朴な親切めいた云はば牧者とでも見えるやうな姿て出て來て道案内をすると云ふて自分の立派な邸宅に連れて行いたのである、彼は其邊りに住む山賊である。

彼は右手に魔杖を持ち左手に魔酒を注いだる盃を持つて、通行する旅人に一杯呑ましむれば忽ち効驗が現はれて友人も故鄉も忘れ果て淫欲の床に轉ぶを悦ぶと云ふ有樣になる。彼は鬪らずもこゝに天女とも見るべき少女を得て大恭悅の餘り、音樂や裝飾を盛にして歡迎の情を表はすのである。

彼はそろ／＼コップに滿々と魔酒を浮べて少女に差出し若し呑まなければ是れなる杖で輕打するなら離れても大理石の如くに成つて仕舞ふと威嚇す、すると少女は大に怒つて天が善の味方である間は汝如きの迷はしは何の用も爲さない、汝僞者めと劇しく云はれたので、コーマス甘くこゝは澁面は禁物だ、何でも陽氣にせねばならぬ、いや美は天下の共有物だなどゝ都合のよい事を云ふて居ると、少女は反對に天の惠は善と節制を守る者にのみ與へられるものだ、――汝は貞操の意義を知らないかと道理を推して云はれて見ると、コーマスも敬服せざるを得なくなり自分の思ふやう「どうも此女の言ふ所ろは何か高き處からの力によつて發したものとしか思はれぬ」

兄達の前に不思議や現はれた一個の男がある、父の牧者、實は守護神である、彼は妹が今危險の場合に在る事を密告する。して血氣に逸る二人を制して案内してコーマスの邸宅に行く、すると、前申したやうな有樣てある、兄達は拔劍して

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

飛入り其盃を奪つて破り、杖を以て抗せんとする彼を捩ぢ伏せた。

すると山水の女神サバリナが現はれて氣が變になつた妹に清水を與へて元氣を恢復さす、妹は兩親の前に無事に送られ、三人共初めて出會つた事件を物語る、其元氣、其信仰、其忍耐、其眞實が能く勝利を得るに至つた事を經驗し、大なる試煉を受けたのを喜んだのである。

さうして居る中にかの守護神たる牧者は前に掲げた數行の言葉を殘して海に辭し去つたのである。（完）

努力と信仰

久連松弘

人は、無邪氣な純潔な單一な幼兒の顔を見る時に、誰しも覺えず知らず微笑を洩らして之を迎へる事であらう。幼兒の無邪氣は、大人の微笑を誘ふものである。然し乍ら此の無邪氣に對する微笑の奧底には此の上もない哀感が潜んで居る。幼兒の無邪氣に對して『可愛らしい』と思ふ心は、一見、單純であるやうであるが、決して然うでは無い。人は何んなに工夫しても姫罌粟の眞紅のやうな美はしい色の繪具を作る事が出來ぬやうに、小兒の純潔といふものは、何うしても再び工夫する事が出來ぬ。此の失はれたる純一無雜なる心に對する憧れは、人類の胸に永遠に潜んで居て、此の上もない哀感である。

十數年前の我々はうぶであつた。柔らかい純情の温かみに抱かれて居た。みづ／＼しかつた。疑惑もなく躊躇もなく唯一條路を眞直に歩いて來たやうに記憶して居る。少年時代の我々は驚異が多かつた。そして『驚異は信仰の母である』と西の詩人が歌つた如く、我々は何の事もなく平氣で信仰に入つた。何の方面を見ても世界は鮮かで、春野の新綠を見るやうな心持であつた。そして、總ての事に豊かなる興味を覺えたのである。然し乍ら、我々は五年十年といふ歳月を經來るに依つて、經驗と云ふものを實生活から得來り、智識といふものを習得し、無一純潔な我々の頭は何時の間にか複雜にして了つた。嘗ては我々は、かりそめの遊び事にも豊かなる興味を持つて居たのが、それは既う何時しか手摩れて來て、嘗ては興がつた事を『つまらぬ』とけなし、驚嘆の聲を擧げた事には『あたりまへ』として了う。

此のつまらぬ、あたりまへといふのは、我々の心が乾燥な生氣のない索然たる狀態に乾固まつたのであつて、これが更に進めば生活の空隙とても云ふ可きものになつて、生活が物憂くなり生存がつまらなくなつた時である。我々は此の狀態にある人を往々世間に於て見受け、近代文學者は間々種材を是れに捉へる。けれども、人といふものは誰れも彼れもそうそうは乾固まつたまゝの地位にじつとしては居らぬ。更に、何等かの形なり内容なりて生活の缺を補充し、生活に興味を附けやうと努力する。此の努力といふものが我々には殆んど

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

先天的に備え附けられてあつて、興味を繋がう〳〵と努力するのである。茲に我々は働くのである。盆栽に努力する人もある　金錢を貯へんと努力する人もある。子女の養育に努力する人もある。天下の政權を握らうと努力する人もある。化粧に努力する人もある。手や足を動かして働くものとあれば精神上の思索瞑想に努力する人もある。

今日、青年の一部に煩悶病といふものがあるが、憶ふに生活の興味が豊かでなくなり、努力するといふ勇氣が失せた爲めであらう。新渡戸博士であつたか嘗て演説された中に「煩悶病人は勝手に酒を飲んで見るがよい。悪所にも往つて見るがよい」といふ言葉があつたが、矢張煩悶の原因が此の興味消失に在ると觀られたからであらう。然し乍ら、酒や悪所から得る興味は、そう何時迄も新らしいものとして持續されやうとは思はれぬ。再び「つまらぬ」の狀態に立ち到るに相違あるまいと思ふ。茲に於てか「努力」の一語は、人をして肅然たらしむる權威の響きがある。

此れども私は決して無意義の努力を欲するもので無い。何となれば單に「働く」と云ひ「努力」と稱するもの丶中には、人間生存の意義が含まれて居らぬからである。生存の意義明かならぬ努力は却て重大なる「躓きの石」である。生存の意義を含まぬ努力や働きは「沈默」と何の變りがあらうとも見えぬ。無限なり空間の永遠なる沈默は人をして戰慄させるものではないか。然らば我等は如何なる努力を要するか。

人生は決して夢幻ではない。人生は眞面目である。夢幻觀と努力とは相撞著する。夢の中に働くは、流水に字を畫くやうなものである。人生は事實であり眞面白である。我が努力の意味は此の「人生は眞面目である事實である」といふ礎の上に建つのである

私は、我々の心には努力といふものが殆んど先天的に備へ附けられてあると言つた。生くるは軈て働くのである。孔子は嘗て委吏となつた。嘗て乘田となつた。曰く「會計當るのみ。牛羊遂ぐるのみ」と。アダム耕しイブ織る。人類生存の意義は唯その職を勤め業を勵むの外果して何物があらうぞ。努力を離れて人生は無い。努力は興味の充實をなすのみでなく、進化と抱著する。我々の生きて働くは現在よりも「一層良き狀態にあつて活きんが爲め」である。進化の徑路を顧ると云ふ事には非常なる「喜び」を有する。「進化の快味」を味ひつ丶生くるものは、死といふもの丶恐怖や思ひ煩ひを知らぬ。そして此の味ひは努力を外にしては到底得らる可きものでない。努力は現在を支配する。努力といふものは決して「我れを」現在の爲めに呑まれるものでは無い。努力は現在を超脫して「我れ」を活かすものである。

然かのみならず、努力は更に又心地よき報酬を與へる。正直なる努力の流せし汗は、紫の露滴る葡萄の朶を與へる。眼に見えぬ心靈の努力は神秘の扉を開く鑰を授ける。正直なる努力の報酬程心地よきものは無いであらう。人よ、徒らに神の恩惠を希ふ勿れ。吾人の努力の報酬こそは所謂神の恩惠である。基督の十字架を仰ぐものは、神と神の子との大なる愛

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を受け、悔いて改め新らしき生涯に入つたのである。是れ仰ぐ者の、我れ救はると『信ずる』大なる働きてはあるまいか。神の愛兒たらんとする大なる努力の大なる報酬は、光輝ある十字架の救ひである。切實なる祈といふ努力には必らず應へがある。信仰に到る迄の努力は愛せらるゝと云ふ報酬となつて現れる。我等の心靈が天を仰ぐ努力は信仰といふ結果となる。ポーロが『効績なくして義とせらる』と云つて信仰は、心靈の努力の結果に外ならぬと思ふ。信仰の二字、談は決して容易てない。信仰は吾人の全人格を根底より衝き動かす力てある。努力てある。信仰は靈魂の偉大なる努力そのものてある。

聖書の研究

ピリピ書解釋（一）

改譯及び註解

柏井園

一、緒論

△著者――パウロの筆なることは疑ふべき理由なく、今日又之を疑ふ學者なし。

△ピリピ――アレキサンドル大王フキリツプの開きし處、ブルウタス、カシャスの戰死せし戰場にして當時は羅馬の軍事上の植民地なり。

△ピリピ教會――パウロ歐羅巴に道を傳へて初めて生れたる教會なり。其の發達健全パウロに累をかけざりしのみならず、パウロに親切なりき。

△此の手紙を書きし時と場處――パウロが羅馬幽囚中に書きしものにて紀元六十一年より六十三年の間の作ならん。

△目的――ピリピ教會よりエパフロデトと云へるを使者として贈物を托してパウロを慰問せしめたるに對する謝意をのべ、且つ多少の教訓と警戒を與ふ。

△特色――切實、濃厚なる情緒に溢れパウロが最も包む處なく個人的の感情を寫したる手紙なり。

二、發端

一キリスト、イエスの僕パウロとテモテ、ピリピに居るキリスト、イエスに在る總ての聖徒及び監督執事に。

キリスト、イエスの僕　パウロとテモテ二人にかかれり。テモテは單に此の書翰を筆記せしか爲にここに其の名を併せ記するにあらずパウロが其の手紙の始に他の弟子の名を併せ記せるときはその弟子が宛先の教會と親密なる關係を有するによること多し。パウロは近々テモテをピリピに遣さんとせる際なれば先つテモテの名を出たせるなり。然れ

ども書翰の本文に於て語るものはパウロ一人にしてテモテには第三人稱を用ひたり。僕と云へるは奴隷の意なり。僕の字は謙遜服從の位置を表すは固よりのことなれども、一面は亦自から居る地位を重く見る精神もこもり居れり。何となれば舊約聖書に於て豫言者を總べてエホバの僕と云ひし所一にして足らず（アモス三〇七、エレミヤ七〇二十五、エズラ九〇十一、ダニエル九〇六）、又モーセ、ダビデ、など偉大なる人々をもこの名を以て呼へる所あり、ことに主イエスは僕の貌を取りて世に現れたまへることをパウロは此手紙のうちに記し置けり。僕なる文字は基督によりて大なる光榮を付與せられたり◎キリストイエスに在る總ての聖徒　聖と云ふ字は適當にあらざれども姑く之を用ふ。神の爲に潔め別てるを云ふ。基督を信ずるものを聖徒と呼びしは初代敎會の風なりき。實際皆潔しとひふ意にあらず、潔かるべきもの、潔くなりつつあるものなり。然して如何にして潔くなり得るかと云はゞキリスト、イエスに在ることによりて淸くなり得るなり。淸き水に浴すれば身は淸くなるなり。イエスの言に「汝等我が言によりて潔くなれり、汝等我に居れ、されば我れ亦汝等に居らん」（ヨハネ傳十五〇三）とあるなど參照すべし◎監督執事　監督なる名が基督敎の文書に見ゆるは此の處を以て最も舊しとす。監督と長老との關係につきては學者の議論の有る所なれども此の研究の目的にてはあらざれば之を省くべし。とにかく監督は敎會の事を總理し、執事はその下に在りて事務を處理する職なりと知るべし

二我等の父なる神及びイエス、キリストより出づる恩惠汝等にあれ、又平安あれ。

恩惠　希臘語の恩惠と云へる語は歡喜とひふ語より出でたるものにして、心に歡喜を與ふるものなり。然れどもこの處には恩惠は神とキリストより出づる恩惠なれば、神の愛より自由に流れ出つる深切をいふ◎平安あれ　たゞ無事なれと云ふのみに止まらず平和あれと云ふ意あり。平和の根底は神と和合し神に喜ばるるに存す。

三我は汝等を憶ふるすべての記憶に於て我が神に謝す。**四**又常に汝等すべての爲にする我がすべて願に於て歡喜を以て願ふ、**五**これ汝等が初の日より今に到るまで福音に與て心を同しくするが爲なり。**六**我信ず汝等の中に善き業を始めしものの之を完ふしてイエス、キリストの日に至らん。

先つパウロがピリピ敎會の信者につきて有する滿足と希望を言へり、これ全書翰に貫ける調子なり◎すべての記憶　憶ひ出づる每にと云ふ意にあらず記憶の全般を云ふ。パウロがピクピ敎會のことにつきて記憶する所盡く感謝を帶ふる所のものなり◎第四節に常にする願、すべてのためにするすべての願と云ふ。パウロの祈りの多くして又廣きる見るべし◎福音に與かりて心を同ふす　福音を傳ふるために心を同ふすることにも、又福音を信するによりて同心一致する意にも解せらる。マイヤーは第二の意味に解せり。然れども改正英譯及び多くの學者は第一の意味に解せり◎善

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

き業　善美なる業なり。立派なる業といふが如し。神の救の業ほど善美なるものあらじ◎イエス、キリストの日キリスト再來の日を云ふ。

七汝等すべての爲に斯く懷ふは義しき事なり。我が縲絏のうちにも又福音を辨明し且之を堅固にするうちにも我は汝等を我が心の裡に置けり。

八我れキリスト、イエスの心腸を以て如何に汝等すべてを慕ふか、我が證者は神なり。

パウロがピリピの信者を懷ひ慕ふ情の切なるを云へり。汝等すべての爲に斯く懷ふと云ふおもひは或る思想にならずして情懷なり◎福音を辨明するとは外より來る辨難攻擊に對して眞理を辨護するを云ひ之を堅固にするとは信する人々の間に之を扶植して其の根を深からしむるを云ふ◎心の裡に置けり戀人を意中の人と云ふ。ピリピの信者はパウロに取つて意中の人にてなりき◎キリストイエスの心腸を以てこゝに心腸と譯しある原語は心臟、肝臟、肺を總べて云へる字にして、人の感情愛人の宿る處ことなりと思ひしによる。改正英譯には意を取つて「やさしき情を以て」(in the tender mercies)と譯しあり。パウロの愛の切なるやられたゞ自然の情にならず、キリストの愛彼の心に湛へられ、パウロの心腸はこれ即ちキリストの心腸なりと云ふも不可なるなし。

講壇

柔弱の結果

ジエ、エチ、ジョウエット

「さてエリの子はベリエルの子なりき」(サムエル前書二〇十二)此は最も驚くべき聯絡である。一見して如何にも亂暴な不自然な對照である。「エリの子」といふは、神の祭司、神より任命せられた敎役者として聖所に出入するところの人の子である。エリの子は神殿のうちに育ち、幼い頃から宗敎に染み、禮拜の響を聞かぬことは稀れであつた。朝も銀の喇叭の響に目を醒まし、夜は夜の禮拜の音樂を耳にして寢に就いたことである。エリの子は每日神の聖徒等が供祭を以て祭壇に近き、跪いて聖歌を歌ひ、祈りを捧ぐるを見、また其の面が最高者の榮光を以て變ることを認めたであらう。然かし此のエリの子はベリエルの子、即ち價値なきものの子、邪なるもの子、始末に了へぬ墮落の子となつた。我々をして屢々驚いて開いた口も塞らないやうに思はせる事柄である。何故に鳩は雲の如く白きうちに在りて斯くは汚れに染んだのであらうか。

エリの子よ。さて其の父のエリは如何なる人であつたか。我々は先づ彼を知らねばならぬ。彼は親切な人であつた。決して腹を立てぬ人であつた。何事があつても從容自若平氣な

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ものであつた。悠々として迫らずゆつたりと搆へて神殿のうちを歩んで居た。彼は低い柔な聲で話し、多く語らない。世間のものが眞赤になつて騒ぐときにも靜平を失はず、世間のものが酷く心配するときにも快活である。「彼は何時でも同じた」とか「決して變らない男だ」とか云ふ批評は、エリの屢ば崇つたところである。また假令神殿が燒けても彼は走り廻ることなく、靜粛に歩むであらうと云はれたほどである。然かし今余は前に説明した言に、制限を附け加へねばならない。エリは親切であつた。然かし其の親切は柔弱であつた。エリに接して決して岩石のやうな所を見出すことは出來ない。彼は常に温厚である、然かし如何なる場合にも燃ゆるやうになつたことは見られない。其の前に出れば常に快い光を浴びたやうな心持がするであらう。然かし恐ろしい電光が閃いて驚倒せしめらるゝやうなことはない。常に一緒に遊ぶことは出來るけれど、嚴しいところも激烈なところもない。其の親切は苔の如くに軟からである。決して花岡石に觸れるやうな心地はしない。常に天鵞絨の手袋で握手するやうで、血の出るほど力を籠めてぐつと握り緊めらるゝことを經驗することはなからう。

さて彼の斯の如き柔弱なる親切は、神を緊りなくて柔弱なるものと考へた結果であることは明白である。聖なる畏懼の念は何うしても見られない。彼は神が出來事の多い暗黑の夜のうちにあることを知りながら、自ら心を痛め且つ驚くことをしないのである。其の靈魂には斯る場合に床から起き上つて跪いて神に祈るやうな敬虔の念はない。故にエリは罪に對して神が非常に心持惡しくせらるゝことを餘り感ぜなかつた。エリは神の親切な神であつた。然かし少しも傷けられぬ潔齋きものではなかつた。神の潔齋きに對する我々の感覺が鈍くて曖昧であつたならば、潔齋からざるものに對する神の不快といふ思想は自から鈍く、且つ無頓着になるであらう。一は他に影響する。

故は彼は神が罪に對して反抗し、激しく反動することを考へなかつた。聖書の記事を見れば其れが明かに解る。其の子らは皆な肉慾の奴隸となつて了つた。またエリ自身も同じやうに奴隸になつて居たことは明かである。彼は子等の肉慾的なるを非難したであらうが、而かも其の貪慾を非難したのではない。彼の精神的の理想は情慾と工合よく調和した。然かし固より普通の情慾からではない。否な神の潔齋きことが曖昧であるから、エリの道徳上の感覺が本當に鋭くなくなつたのである。彼の神は温かい親切なる神であつた。榮光に輝く潔齋きものではなかつた。故に彼の靈性は軟な夕榮えのやうなうちに活きて、畏敬すべき精神上の日中の燃ゆるやうな光線に照らされたことはない。

此の實際上の結果を見るに、エリの性格は之に接する人に印象を遺さない。何んの勢力もなく、人に迫るやうな眞實なく、已むを得ぬと云ふこともなく、避け難いといふこともない。型を造るにあらずして、型に入れて造られるのである。境遇を自ら造つて行くのでなくして、境遇に造られるのであ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る。彼は境遇に命じて、自ら望むところの港に入ることの出來るやうに己れの意見に從はせ、強て然うさせやうとするのてなかつた。此んな風てあるから彼の非難は更に感化がない。彼が其の子らを戒めても、其の言に何等の力もなければ覺醒せしむるところもなかつた。其の怒りはぱあつと閃めく電光のやうて何等の効果もない。『何ぞ斯る事をなすや。我このすべての民より汝らの惡しき行を聞く。我が子よ然かすべからず、我が聞くところの風聞よからず』と。飛道具ても投け付けるやうなところがない。潔齋い感情から生ずる衝動が何にもない。火がない。神の儼かところがない。潔齋き反抗がない。只だ間接な慣りて、少しも徹底しない。鹽に味ひがない。其れ故に個人的にも家族的にも腐敗して居るのを矯正する力がない。然ればこそ「エリの子はベリエルの子なり」と云はれるのも怪むに足らぬ。彼等は『神を知らなかつた。』彼等は神の潔齋きことについて其の父から學ばなかつた其の父、の職業は聖所に入つて忙しく力を盡すことてあつたのにも係らず、彼等は其の父を尊敬して居らない。彼等は其の仲間のものを貴ばない。彼等は自身についても適當な考へを持つて居ない。彼等は神の恐るべき所以を知らないから、之を恐れない。彼らは其の父が神を代表して示したところにより、神を以て親切な、緊りのない、至つて寛大なものと解釋して居た。暫らくの宴會て食慾が滿足されたとき、若くは人生の燭火が消えかゝつたときにのみ神のことを考へればよいと思つて居た。故に彼等は宗教上のことに色々與つたけれど、彼等自身は決して宗教的がなかつた。

さて此等の事柄は今日も尚ほ適切なることではないか。余は近世の宗教生活に於て高尚なる儼格といふことが著しく缺けて居りはせぬかを考へられんことを諸君に望む。威儼犯す可らざる潔齋よりも柔弱な親切が多く。傷けることの出來ない名譽よりも妥協的の寛容が多い。男子には大いにして立派なる紳士的なところを缺き、女子は大いにして立派なる淑女的なるところを缺いて居る。かくて多くの基督信者は親切であるが剛健でない、温情であるが清淨でない、寛容であるが潔齋くない。我々の寛大は敬神の美しき結果でない。是れは苦役に生ずる毒菌である。我々は清淨徒の大いなる特色の一つであつた人の心に徹する樣な精神の威儼を失つた。余は氣儘の寛大よりは、清淨徒のやうに狹隘でも清淨なことを欲する。余は兩手兩足兩眼ありて神を瀆すやうな緊りのない地獄に投け入れらるゝよりは、寧ろ片手片足片眼で不具な生活をすることを望む。我々の最も通俗の警語は、何うにかして現代に附き纏つて居る柔弱なる氣風から脱却することである。『基督に歸れ』。然り、然しながら唯に親切なる、基督憐み深き基督、善人なる基督に歸へるのみでなく、我等の罪を救はんが爲めに生れ、力を盡し、且つ死なれた潔齋き基督に歸らねばならぬ。基督の最も大なること、諸君や余と異ふところのことは、彼が凡ての罪に對して永久に且つ燃ゆるばかりに反抗せらるゝことである。基督の教會と其の信者とが基督の潔齋き心によつて支配せらるゝときは、高調の時であ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る。基督の與ふる生命の水は其のうちに眞實の力を有する、潔く且つ聖化されたる元氣の要素が含まれて居る。我々は我々の自由に嚴重な制限を置かねばならぬ。我々は花岡石のやうに剛健なるものにならねばならぬ。我々は愛する者の罪を打ち遣つて置いて一層深く彼等を害ふよりも、寧ろ手痛く之に反抗して彼等を困らさねばならぬ時、即ち讓歩して彼等に從ふよりも、彼等を打ち碎かねばならぬときがある。我々は主の妥協を好まれなかつた精神に從つて「否」と云ふことを學ばねばならない。

訪問

女子の寄宿舍に就て

本多てい子

○恰度子供が病氣で、近頃其の方にばかり手を取られて居ますので、別に之れと申してお話申し上げる材料も御座いませんのですけれど、近頃ちよいと聞いて感じて居ますことでもお話し致しませう。

此の頃、或る所に立派な寄宿舍が出來ましたそうで――其の寄宿舍は舊からあつたのですけれど今度新築し直したので御座いますが――それが、萬事誠に良く手が屆いて、電燈か瓦斯燈か何でも立派なものが設けられ、又ちよいと起つてねぢを拗れば水でもお湯でも直ぐ出るやうな設備で、誠に便利な結構な寄宿舍であるといふ話で御座います。之れを聞きまして私は考へましたのです、電燈や瓦斯燈で勉强をし、水でもお湯でも體を勞せずに得られる便利な生活をしてゐました女子がサテ其の寄宿を出て家庭の婦人となつた時て御座いますね、其の場合に何麼もので御座いませう。唯今の世の中の家庭は、とても其麼便利な設備のある處は誠に小なう御座いますので、其麼便利な生活に慣れた女子のが、一家の主婦となられた時には隨分困難なさる事てありませう。女子靑年會の寄宿舍には未だ參つて見ませんので御座いますが、……

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

山脇さんの專脩女學校とかで御座いますね、此の寄宿舍などの制度は、幾つもの小さい家庭になつてゐまして、名々が何から何迄働かねばならぬやうになつて居ますのですが、此の方が女子の爲め却つてよろしくはありますまいか。女子大學のは、よくは存じませんが矢張先づ此れに似寄つたもので、買物などは女中にさせるそうですけれど、それでも結構で御座います。餘り便利過ぎますと、不自由を感ずる事が御座いませんし、實地の經驗も得られませんし、後で餘程困ることであらうと存じます。

○それから、寄宿舍は大勢で御座いますので、何うしても責任を感ずる事が薄くなりますね、例へば箒の始末にしましても、其の邊に投り出して置きましても、誰がしたのやら分りませんので、家庭に居ますればお母さんやお婆さんに叱られて始末よくなるのですけれど、寄宿では然うは參りません、何うしても無責任になります。私が學校に出て居ました時分は、總體私は綺麗好きで御座いましたので、何でも綺麗にして置きました。足袋なども何時も洗つて白いのを穿いて居ました。お友達は何時も評判して居た位で御座いました。それが、今では忙しさのために、綺麗どころでは御座いません、ともすると部屋の中が散らばつて、お客様にお耻かしい事が御座います。妹などの參りましても、あの綺麗好きの姉さんの足袋がよごれて居るなどと笑はれるのです。それ程綺麗好きでした私でも家庭に入れば斯うなる位ですから、寄宿舍生活をして無責任な習慣が附きますと、後で餘程困ることゝ存じまして……

○それから、私の方の女學院でも然うで御座いますが、日曜日に、餘り聖書攻めにします傾が御座います。此れも何麽もので御座いませう。朝は、日曜學校を受け持つ方は其の方に出まして、それから會堂に出席致します。歸つて參りますと、もうお晝で御座いませう。御飯を頂きますと二十分間は室に居て殆んどお話もしてならぬ位靜かに保つて居ねばならぬ事になつて居ます。それから祈禱會がありますと云ふ有様て、日曜といふ目的から致しても、此の日は矢張自由に遊ぶやうにした方がよろしくはないかと思つてゐます。

實傳

賢母モニカ（下）

モニカは如何にもして其の子が再び舊の如く神を信ずるに至らしめねばならぬと熱心に心に祈つて、遂に其の故郷を去りアウガスチンの後を追ふて羅馬に向つた。アウガスチンは暫時羅馬に滯在したのち、雄辨學の教授となつてミランに赴いた。母は其の子が打ち沈んで氣を落して居るのを見た。快樂を求むる情熱は彼の心を惱まして居る。彼はマネ教の理屈の不備なることを悟つて、遂に之を廢めた。何處に眞正の知慧があるであらうかと頻りに探し求めるやうになつた。モニカの鋭い眼はアウガスチンの此の變化を看破した。心私かに確信するところがあつて、彼女は『妾は神の助けにより妾の死する前にアウガスチンが教會に加はるに至ることを信ずる』と繰り返へして居た。其の熱切なる希望は辛うじて成就せらるゝときが來た。アウガスチンはミランの監督アムブロオスの說教を聽いて心を動した。子供のときに懷いて居た宗教心は、今深い思想となつて新たに其の心を占領するに至つた。モニカはアウガスチンが遂に世の凡ての慾望を抛ちて其の生涯を神の國の爲めに獻けるほどに大なる變化を來すことを信じて疑はなかつた　彼女は以太利に居る間も曾て亞米利加に居たときと同じやうに神に事へ善きことを爲すに熱心であつた。かくてモニカが久しく待ち望んで居た時が來た。アウガスチンは己が邸內の無花果樹の下で、全能の神の前に跪き、熱き淚を流して罪を悔い、其の赦しを願ひ、且つ聖き生活に入るを得んことを祈つた。昔時ナタナエルを無花果樹の下に於て慈愛に溢るゝ眼で見られた耶蘇は、また第二のナタナエルを見て之を受け容れたまふた。アウガスチンが神の恩寵を蒙つたことを告げたときの母の喜びは如何ばかりであつたらうか。彼の女の夢は成就した。其の母の情を遺憾なく注ぎ出して多年其の子の爲めに盡して居た誠心は決して空しくならなかつた。

アウガスチンは悔い改めてから、バプテスマを受けるまで、數ケ月間ミランから少し離れたカッシャアムと云ふところに退隱して靜かに信仰を養ふた。モニカも同行して家事の世話をした。此所に居たものはアウガスチンの外に、モニカの次男ナヴィジアス、孫アデオダタス、（是れはアウガスチンの子である）其の外アウガスチンの書生や友人など數名と共に暮した。モニカはアウガスチンと靜かな秋の空を見あけつゝ、または家の內で、人生の最も高尚な問題や、靈魂の最も深い喜びについて互に語り合ふた。信仰の靈魂から迸るモニカの言は自から聽くものゝ心を動かした。久しく世の暴風や己が情慾の荒波に揉まれた生活を脱却して、アウガスチンは始めが聖ある平和の港に入り、靜平にして祝福されたる日を送るを得た。モニカは其の子の爲めに多くの悲みと嘆きとを爲したけれど、今は其の苦痛以上に報いられた。アウガスチン

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

も母の心を汲んで深く之に感謝した。或る日母に謂つて曰く「本當に母さん、貴方の祈りの答へて私は堅く神を信ずるやうになりました。此の外に眞理を探ぐる心もなく、望むべき外の何ものもありません。私は此の外何にも考へず、また愛しません」と。三百八十七年の復活節の日、ミランの敎會に於てアウガスチンと其の子アデオダタスとはバプテスマを受けて、敎會に加はつた。其のときのモニカの滿足と喜悅とは如何ばかりであつたであらう。

かくて彼等はアフリカに歸ることを決心し、オスチアといふところまで歸つた。そこから船で渡る準備が已に出來上り、故鄕の山を見るも間近くなつた。然るにモニカは地上の故鄕に歸へるよりも、天の故鄕に歸へる時が近づいた。其の心の願ひはアウガスチンの受洗とゝもに成就されたので、最早地上に彼の女の心を繋ぐものがなくなつたので、其の希望は只だ天の一方にあつた。一日オスチアの家でアウガスチンに向ひ、此のやうな思ひを漏らしたことがある。二人は天のことを考へつゝ、「汝の主の喜びに入れよ」との言を思ひ出し、天の父の國の幸福に心往くばかりになつた。其のときモニカは「妾に取りては此の生涯に於て今日よりも喜ばしいことはありません。妾は此所で此の上爲すべきことを知りません。また今何故此所に居るかといふことも知りません。妾に只だ一つの願ひがありました。それは妾が死ぬ前にお前が眞正の信者になつてくれることでした。神は妾の望みに優るものを與へて下さつて、今は世の幸福に心を寄せず、神に事へて居るお前を見ることが出來た。何にしに妾は此所に躊躇することがありませう」と云つた。數日の後モニカは熱病に罹つた。急激に病勢が進んで屢ば昏睡した。「妾は何處に居るの」と尋ねる。眼を開けて、其の側に悲んで居る小供らを見「此所に妾を葬つて下さい」と云ふ。アウガスチンは涙禁め難き有樣である。其の弟のナヴィヂアスは何うかして母を恢復させたいと勉め、外國では母を死なせたくない、神は必ず其の故鄕に歸へしたまふであらうといふ。良人の側に葬らるるは母の日頃の望みであつたことを知つて居るから斯う考へたのである。然かし病勢は益す進み、到底其の希望は成就せられさうもなくなつた。母はナヴィヂアスに向ひ「此に妾の骸を葬つて下さい。心配したり、嘆いたりすることはない。然かし妾は何處に在つても神の祭壇の前に出たときに、必ず妾のことを忘れないやうにして下さい。是れが妾の唯一つの願ひです」といつた。かくて彼女は三百八十七年病に罹つてから九日目、五十六歳を一期としてオスチアの地に於て此の世を去つた。アウガスチンは其のとき三十三歳であつた。彼は母を失つて淋しく故鄕の吾が家に歸つた。感慨窮りない。我が身の上を憂へて此の家を棄てゝ遙かに異鄕の土を踏ませ、遂に再び此所に歸るを得なかつた母の心中を偲んでは、殆んど耐え難きものがあつたであらう。母の面影は日夜彼の眼のあたりに彷彿して居る。神の祭壇に出ては其の最後の遺言の常に鮮かなるを覺えざるを得ない。彼の後の生涯は母の紀念であつた。

もしほ草

丸藥を嚙むな

西洋に『丸藥を嚙むな』といふ諺がある。一體藥は其の苦い味や澁い味を嚙み分けないでも、一思ひに呑み込んで了へば好いのである。人生のことも之と同じことが多い。兎角人は苦しいことや辛いことを頻りに嚙み味つて、失望したり、落膽したり、不平を鳴らしたり、神經を惱ましたりする。其の苦い味を味つたからとて何も役に立つ譯ではない。其れよりも其の重荷なり難局なりを一思ひに負擔して之を立派に處理して了ふことが肝要である。曾て西班牙の聖テレサが或るところに修道院を設くる積りで、視察に行つたことがある。其のとき夜に入つて彼女は一人の女の弟子と共に淋しい古い建物のうちに宿つた。すると弟子は夜半にテレサを呼び起して「先生私は先程から若し此の樣な淋しい所で先生に若しものことがあつたら何うしやうかと思つて心配で眠ることも出來ません」といふ。テレサは落付いたもので、「まあ其のやうなことが起つたら其の時に考へませう、今は靜かに眠らせて下さい」とたしなめたことがある。我々は何うも譯もないことに取り越苦勞をして心配をしたり、恐れを懷いたりして、無益に精力を費すことが多い。人が苦しいとか、悲しいとか、辛いとか云ふときの事情を見るに、多くは己れの負擔せねばならぬ責任其のものを側目も分らずに負擔し、此のことの爲めに思慮を凝らすといふよりも、丁度丸藥を嚙み碎いてあゝ苦いとかあ、澁いとか云ふと同じやうに、其の責任に附帶した味はひに氣を取られて了つて居るのである。然うでなければ愚にも付かない取り越し苦勞に心を痛めて居るのである。曳きづる十字架は重く、一思ひに負擔する十字架は輕いと云ふ語もある如く、困難なこと、苦痛なこと、嫌なことに對しては、只だ其の最も大切な意味を考へて一思ひに之を背負ふが最も賢い遣り方である。

口を廣く開けよ

孤兒の救濟に其の身を献げた英國のミュラアは信仰の厚い人で、何事も神とともに活動くことを心がけて居たのである。或るとき彼が着手した孤兒院の事業について多少意の如くならない點もあり、心に躊躇するところがあつた。すると一日彼は詩篇第八十篇『なんぢの口を廣く開けよ、我物を滿たしめん』といふ一節を讀んで非常に感じて、其れから出來るだけ大きな志を立て、出來るだけ盛んに力を致すのが神の望まるゝところだと思ひ、其の遣り口を變へたといふことである。雛が巣のうちで小さな口を出來るだけ廣く開けて、親鳥の持つて來てくれる餌を澤山に喰べやうと力めて居る。詩篇の記者は此の有樣を見て此の思想を得たのであらう。我

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

我々は生涯の規摸も抱負も志も出來るだけ廣くし高くし大きくしなければならない。口を廣く開けよ、然らば神は其の求むるところのものを滿しめたまはん。

信仰の修養

此ほど或る集會にて臺北日本基督敎會の牧師河合龜輔氏が信仰を修養する方法につきて懇切に語られた。參考になる點が多いと思ふから、其の要點を紹介する。

信仰に四種ある。智的信仰あり、感情的信仰あり、石の如き信仰あり、然かし石だけてはいけぬ、感情だけてはいけぬ智だけてもいけぬ。活ける基督に於ける信仰が必要である。活ける基督と握手する信仰ありて、始めて生命あり、進歩あり、力より力に進み、恩寵より恩寵に發達することが出來るかのサンダウは自ら身體が虛弱で困つて居た。然るに羅馬希臘あたりの人が非常に發達して居るのを見て、生理學を研究し、種々工夫を凝らした結果、凡ての筋肉を發達せしむる方法を考へて、今日ては羽二重の如き柔な皮膚を有し、而かも鐵線をも其の腕にて切ることが出來るほどになつた。斯く發達するには順序あり、手段あり、一朝にして得るものてない信仰のことも亦然りてある。

夜も晝も之を思ふべし

第一の方法は決して新しいものでなく、聖書を研究することである。此の研究を怠るものは自然信仰の發達が鈍い。詩篇記者は夜も晝も思ひ續けると云つて居るが、聖書の句を思ひ續けて深く味ひ、之を咀嚼し、之を好く消化することが必要である。耶蘇は誘惑に逢はれたときにも聖書の句を以て之に勝たれた。誘ふ者が聖書の句を以て更に迫まるときも正しき解釋を與へて之を退けられた。信仰上の波瀾に於て、之を切り拔け、安全なる港に入ることを得せしむるものは聖書てある。故に組織的に日々之を研究することが大切である。聖書に對すること宛かも友人に逢ふが如き心地して之を讀むが肝要である。而うして深く之を思ひ、之を瞑想すべきである。

祈りて惓まざるべし

第二の方法は祈りである。パウロは凡ての智識は基督のうちに隱れて居ると云つた。此の隱れて居る智識は力を用ひずして見ることは出來ぬ。骨折つて勉めて始めて見ることが出來る。耶蘇の比喩にある畠に隱されたる寶の如きものである。之を開拓し、探し求めねばならぬ。其の探し求むることが即ち祈りてある。神の前に祈つて考へて居るときに、其の寶を見出す。基督者が祈らぬならば空氣を呼吸せぬと同じく、生

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

活することは出來ぬ。耶蘇は山上に於て祈つて居らるゝときに、變貌せられた。若し十字架が要らなかつたならば、此の時昇天せられたであらう。山下には病人を癒すことが出來ないで困つて居る弟子がある。基督は山より下り、斯ることは祈りと斷食とによるにあらざれば爲す能はずと弟子を戒められた。今日の教會は宛から山下の弟子たちの如きものであると思ふ。宗教的智識と生命とに於て基督に匹敵するものは天下にない。其の品性は恩寵と眞理とに滿ちて輝いて居る。其の教理から云ふも之が信者たるを榮譽とする。考ふれば考ふるほど豪い。其の豪いものを有しながら教會は何故世を感化することが出來ないか。神、基督、罪、救、天國、永生、此の六大觀念は實に立派なものである。殊に十字架の教への如きは、之に達せぬものは兎や角云ふけれど、此の靈の源泉を味ふたものはパウロの如く此の外我は何をも傳へないと云ふほどに立派なものである。此の立派な眞理を有しながら、何故世を動かすことが出來ぬか。或は生活難を訴ふるものがある。我は更に大いなる生活難があるべき筈だと思ふ。耶蘇の十字架を見れば何んでもない。今日の我々は神の爲めに犧牲を献ける精神が足らぬ。要するに祈りの精神が乏しい。困難につぶやくのを祈りに代へねばならぬ。耶蘇の十字架に於て忍耐の力を與へられねばならぬ。

二〇

禮拜と祈り會と讀書

第三の方法は日曜日の禮拜と祈り會とに出席するのを怠らぬことである。何うも此の二つを缺くものは信仰が健全なる發達を遂げぬ。

第四の方法は書を讀むことである。何んでも彼でも撰ぶところなく讀むは誤りである。惡友よりも更に惡い。善き健全なる書を撰んで讀むことが大切である。

自己を省みよ

第五の方法は自己を省みることである。聖書を讀むときは自己のうちに之を讀むべきである。ユタの記事は正しく自己のことが書いてあるやうに感ぜられるところがある。ペテロのことにしても自分の卑怯なところなどがあり〱と寫されて居る。日毎に記す我が日記は即ち聖書である。神の求めたまふところに何れほど役に立つて居るであらうか。之を考ふることが必要である。

我等は常に謙遜でなくてはならぬ。或る人聖オウガスチンに宗教の要は何ぞと問ふた。すると彼答へて曰く謙遜。次に必要なるものは何ぞと問ふた。彼答へて曰く謙遜。其の次は何ぞと問ふに答へてまた謙遜と云つたといふ話がある。謙遜なるものは何時でも神の深き教訓を學ぶことが出來る。自分を批評する言を見聞しても、自然を見ても、人を見ても、種々

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の出來事に接しても、皆な大いなる教訓を得る。また忍耐を學ばねばならぬ。或る人忍耐は下女の如き道德であるが、女王になるものであると云つた。信仰を修養する上に於ても時々失望することがある。或は自分は實際救はれて居るであらうかと疑はれることすらある。斯る場合には只だ忍耐して神に祈り求むるの外ない。

會　報

●大阪ウヰルミナ女學校青年會報告

一雨毎に綠深うなりまさる折柄さゝやかなる我會も御恵の雨ゆたかにうけ春陽暖かき今日新しき役員委員を得喜び感謝いたし候、

四月十二日午後二時半青年會室に於て第一回事務會を開催す、深井姉の祈禱をもて始む

一、級長（各級の副會長）撰擧
　從來級長は學期の始めに於て教師之を指名したれ共來九月よりは各級自由に撰擧する事

二、新役員
　會長　高島光子
　會計　粂田なほ
　書記　宮川茂代
　副會長　本科五年　鈴木すゞ　四年　濱口はま
　三年A　朝田かず　三年B　島田まつ
　二年　池田しな　一年　青山ゆき

三、青年會の目的は主に內部に働きて自ら其德を修むるにあるを以て今年は特に此目的に從ひ各自先づ其德を修めまた其級を整理する事に努力せんことを期す

四、四月より各級に級則を制定し一人若くは二人の風紀委員を設く、級則に違犯したるものは相當の罰に處せらるべし但し級則及び罰は各級に依りて相違あり。

五、祈禱會　全校總祈禱會は毎月二回とし時に講演會を兼ね、他は二回若くは三回級祈禱會を開く

右五ヶ條を制定して閉會す。

四月十四日　新任教師及び新入學生の爲めに歡迎會を開く。校長より當會の主義、方針及び現狀等につき簡單なる報告あり深井姉新役員を紹介す、新任會長高島姉の司會の下に

讃美歌　一同　聖書朗讀　司會者
祈禱　司會者　勸告　アレキサンダー教師
歡迎の辭　教師總代　歡迎の歌　有志數名
歡迎の辭　司會者　答辭　入學生總代

是れより親睦會に遷る委員諸姉の盡力に依り短時間なりしにも係らず歡を盡して散ずるを得たるを喜ぶ

同日第二回事務會を青年會室に開く

議事

一、孤兒院に於ける當會の事業を經續する事

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一、事務會は毎月最終の水曜日に開催すること
其他三四の議案は決定せずして閉會す
四月二十八日午後二時四十分第一回講演會を開く題は「美」青山教師の面白き講話あり、各々理想の美人たらむとことを期して散會す。

●名古屋聖使女學院支部報告

二月十三日　常集會午後三時開會　司會者　支部長
古今聖歌　三四六。講話、刑法に就き深野裁判所長。聖話、婦人の勇氣（エステル）本會顧問　宇野牧師。
出席者　三十名　午後五時半閉會
三月十日　祈禱會午後四時開會　司會者　森　君枝
古今聖歌　三九一。勸話、會員各自の責任に就て、田邊會員。
古今聖歌　二九七。祈禱。勸話並に祈禱、外國女子青年に就て、
出席者　二十名　午後五時半閉會
三月十三日　常集會午後三時開會　司會者　副支部長
古今聖歌　三四六。講話、民法に就き、深野裁判所長。聖話、神に忠實なる使徒、ミス、トレント。
出席者　二十名　午後五時閉會
四月三日臨時祈禱會午後四時開會　講師病氣につき缺席青年會の發展の爲め並に本會員及び各住地に赴かんとする聖使女學院卒業生數名の上に神の祝福を祈る、出席者二十名、午後五時閉會、

●第四回女子青年會夏期學校

同校七月中旬開催の筈なるも未だ確定したる場所と時日は發表する能はず希くは諸君の熱誠なる祈禱により委員諸君の撰擇が宜しきを得て多數の女子の來會せんことを希望す。

●日本女子青年會委員春季總會

五月八日安藤坂の新築寄宿舍に於て日本女子青年會の春季總會開會せられたり、來會者は井深、中島、フイシャル夫人及びウエスト、リユイス、デントン（京都）、河合、マクドナルド、マシユ孃にして、役員撰擧の結果井深夫人會長に他の役員は再撰せられたり

●修身會員日本全體の事業の爲めに修身會員を募り此會員は少くとも金貳拾五圓を一時に寄付することを決したるに最も欣ぶべきは委員中の二名は直に修身會員たることを申込れたることなりとす、

●明治の女子に關する種々なる希望も出でたるが先頃より着々改良の見はるゝは感謝すべきことなりとす、來會者の希望は雜誌が尙多くの會報を掲載して日本のみならず、海外に於ける青年會の狀況を知らんとする會員の希望を滿たすべしとのことなりし。

●會數及び會員數　現今十三個の學生青年會と四個の市青年會あり、此會員の總數は千四百名

●訪問　河合孃は本部委員を代表し盛岡青年會を訪問し種々

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なる學校より參集したる女學生の爲めに會合を開かる

●寄宿舍　本年中東京青年會は二個の新らしき青年會を建設し他の青年會は他の事業を成就しつゝあり

●新幹事　本部の庶務を理する爲めに一人の新幹事九月頃來着の都合にて同幹事執務後は總幹事は今一層全國の青年會の爲めに盡力するを得るに至らん

●東京第二寄宿舍開始

大なる感謝の念を以て報告し得るは東京青年會は第二寄宿舍を開始するを得るに至りたることとなりとす、已に四月十七日を以て學生は同舍に入塾したり、舍監としては韓國に於て過去三ヶ年間敎師として經驗し今回歸朝せられたる久富夫人甚だ好適の人として善き紹介を以て來られたれば今後寄宿舍は學生間に於て善良の勢力の中心たらんことを信ず、外市及び各地にある會員諸君は市内に來る學生を本會に紹介することとに依り假令寄宿舍に滯在せざるも青年會に依つて大なる助力を得るに至らんことを、

寄宿舍の開始式は六月中に擧げらるゝと云ふ

●東京女子青年會年會

五月十日月曜日麴町區土手三番町十五番地同會に於て開會、會長津田孃の外に三十五名の會員列席し、河合、鈴木、世良田、新渡戶の委員は一年間の報告をなし元田博士演說をなす、新に理事として撰擧せられたるは櫻田、小室兩夫人安井　ボーフラハー（新任東京監督の令妹）兩孃にして他の理事は津田孃、森子爵夫人、三宮男爵夫人、新渡戶夫人、小畑夫人、津田令夫人、テリー夫人、川島孃、コルビー夫人、河合孃なり、此集會に關する詳細なる報告は次號に揭ぐべし、

●大阪ウヰルミナ女學校女子青年會

三月　第一の週間に「キリストと人類の要求」と云ふ題の下に各級各々祈禱會を開く、

三月十日　各級合併にて學年最終の祈禱會を開く過る一年間の神の惠を謝すると共に來る學年には優渥なる惠をもて當會を指導し其發展を助け給はんことを切に祈る

三月二十六日　午前十時半會長司會の下に當學年の總會を開き送別會、親睦會を兼ね、送別會は二名の敎師及び卒業生の爲めにして司會者及び青山敎頭より丁寧なる送別の辭あり特に卒業生には贈るに「テモテ前書第四章第十二節の句を以てせらる暫時祈禱の後兩敎師及卒業生の答辭あり

當月中我等の愛する本會々員本科四年生宇都千代子姉並に野原光惠姉死去せらる、光惠姉は昨年四月野原氏に嫁せられ爾後沖繩に住まはる、兩姉は共に熱き信仰と希望を抱きし人にて其美しき死は幾多の人を泣かせしか、彼等は若き病床に橫はりつゝもなほそのほゝゑむ笑と胸に滿ちゐし祈願とは固く冷かなる人の心をも動かすべく見えぬ、宇都氏家の如きは其愛孃の死により神の敎に入れられ輝く希望と喜悅の中に悲愁の蔭も止め給はぬかと思はるゝばかりなり、短生涯の中に

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

斯る功績を殘して逝去せられし兩姉の我等の間より出てしを深く喜ぶと共に亦其死を限りなく悼む

外報

●アフリカ女子青年の爲めの必要なる事業　は寄宿舍を建てて彼等が田舍より都會に出てゝ職を得る迄若しくは已に之を得て後尚彼等之れに止まらんことなり、何んとなれは現時に在つては女子の爲めの寄宿舍は殆んど皆無の姿にて彼等は毎日遠方より通勤するか、若しくは誘惑多き場所に寄宿するに在り、然るに先般來會員の一人たるキネヤルド夫人はアフリカに旅行すると共に此問題に最も多く注意を大に取調ぶる所あり、其結果を常務委員會に提出したが大なる賛同を得て近き將來に於て此種の寄宿舍の設立を見るに至ると云ふ

●英國女子青年の爲すべき事業　女子上流社會の女子青年にして時あり資力あるもの其近隣の住ふ貧民の爲め其餘暇を用ひて善き働きをなさんと勤むるもの起り、之を以て青年會の一事業として「時と力」の會と名け貧民をして人生に關して成るべき淸く高き理想を懷かしめんとし、又家庭を經營するの道を授け彼等が得る少許の金を成るべく有益に費やさしめんとするに在り、彼等の內の或る者は倫敦の貧民窟の一部に家を設け此處に來るものには安價を以て晝飯を喫することを得せしめ、或は宗敎上の集會を催し、以て勞役する女子青年をして成るべく幸ひに、成る可く淸く、成るべく樂しく送らしめんとするに在り、現に或る場所に於ての彼等の働は非常に成功し、實に險惡なる場所として目ざゝれし、非常なる變化を呈し此に探偵の如きも其働きの結果の大なるに驚きし程なりと云ふ、夫れ斯の如くにして女子青年は人に仕ふ喜びを味ひつゝあり而して此喜びや、實に人生の最も眞正なる喜びを味ふものなり、

●印度女子青年會新會館　先般一の新會館は印度カルカツタに於て開かれたり、其會の委員は千人にして多くの特別會員を有す、茲に一つ注意すべき現象は其會館費用の五分の一は政府より支給せらたることなり、此一事により如何に青年會が有益なる活動を社會の爲めになしつゝあるやを知るに足るなり、館內には體育場、書籍室、讀書室、會員室、其他敎場の設けもありて聖書研究其他の敎育事業に用ひらるゝと云ふ、

●萬國學生青年會大會と三谷たみ孃　一昨年東京に於て開會せし萬國學生青年會大會のにとは今尙諸君の記憶に新たなる所なるが今年は英國フクツスフヲルドに於て開會せらるゝことなり四十名の婦人は各國より參列することとなるが日本よりは現今に滯在せらるゝ三谷孃出席さるべく、又長く本部委員長たりしホイツトマン孃も臨まるべく外に尙一名參列せらるべしと云ふ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

YOUNG WOMEN
OF
JAPAN

Vol. VI *May 1909* *No. 1*

Mrs. H. Ibuka, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice-Chairman
Miss A. G. Lewis, Recording Secretary
Mrs. G. M. Fisher, Treasurer
Miss Michi Kawai, Active Member World's Committee
Miss Sumi Miyagawa, Corresponding Member of the World's Student Christian Federation

Resident Members	Non-Resident Members
Miss A. B. West	Miss K. Tristram, Osaka
Dr. Tomo Inouye	Miss N. B. Gaines, Hiroshima
Miss Hama Hirano	
Mrs. Koharu Nakajima	
Miss Uta Suzuki	

Miss A. Caroline Macdonald, General Secretary
Miss M. L. Matthew, Assistant Secretary

Headquarters:— 15 Dote Sanbancho, Kojimachi, Tokyo

明治の女子

一、「明治の女子」は日本基督敎女子青年會中央委員が發行する機關雜誌也。

一、「明治の女子」は一年分郵税共金五拾錢一部郵税共金五錢とす。

一、日本基督敎女子青年會は青年女子の衞生、計交、智識、靈性上の發達を計るための團體也。

一、日本基督敎女子青年會中央委員左の如し。

委員長	井深花子
副委員長	岡見惠子
記錄書記	エ、ジー、ルイス
會計	フィシャー
萬國基督敎女子青年會同盟委員	河井道子
萬國學生基督敎同盟會委員	宮川すみ子

東京在住委員

エ、ビー、ウエスト	井上友子
平野濱子	鈴木歌子
中島小春	

地方在住委員

大坂 ケー、ツリスツラム	京都 佐伯いと
京都 デントン	名古屋 ウインウイルソン
廣島 エヌ、ジー、ゲインス	神戸 デフオレスト

日本女子基督敎青年會幹事	エー、シー、マクドナルド
同副幹事	エム、エル、マシウ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治四十二年五月十五日發行（毎月一回十五日發行）

明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

YOUNG WOMEN

OF

JAPAN

Vol. VI. *May, 1909.* *No. V.*

CONTENTS

EDITORIALS:—

The Crisis of the Spiritual Life.
The Study of The Bible.
An Open Letters from The Student Christian Movement of Great Britain And Ireland.

LEADING ARTICLES:—

Milton on Chastity. Mr. T. Komatsu.
Endeavour and Faith. Mr. H. Kurematsu.

BIBLE STUDY:—

Studies in the Epistle to the Philippians. Prof. S. Kashiwai.

SERMON:—

The Result of Effeminancy. Rev. Mr. Jowett.

INTERVIEWS:—

Some Thoughts about Christian Dormitories Mrs. T. Honda.

BIOGRAPHY:—

Monica (II) Mr. I. Shirai

MISCELLANEOUS:—

Y. W. C. A. NEWS:—

FOREIGN NEWS:—

（東京神田美土代町 三秀舍印行）

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA